

が期待されています。しかし、ここで考えるべきことは、そのまま学校に持ち帰り、教室で使えるような研修内容・方法であることが必ずしも望ましいことではないということです。学校教育で遭遇する教育上の困難は極めて多様であり、複雑な要因を背景に持っているはずで、そのような、さまざまな課題に多様な方法で対応できるような力の元になる、そのような基礎的な力がつくような研修の内容と方法をとるのが適当であると考えられます。

児童・生徒に自然の事物や現象の理解を促すための理科教育では、それを担う教員自身

がさまざまな自然の事象について思いを巡らす知的な好奇心や科学的興味・関心を持つことが最も重要なことです。さまざまな自然の事物や現象を因果的・合理的説明をするための知的探索活動や論理的思考が楽しみになるような教員研修とそれ以前の教員養成教育が実現できるように、教員養成にあたっている大学・学部と大学教員の責務は、ますます重要になることは間違いありません。

小野 義隆先生のプロフィール

茨城大学 教育学部 教授、副学部長。専門は、植物病理学。植物寄生菌、特に植物さび病菌には造詣が深い。



りか先生の 情報BOX ～まずはここからチェック！～

「パスタを使ってどれくらい強い橋を作れるか」という今回の実験は、小学生から大学生まで楽しめる遊びです。

「どんなパスタをどれくらい使うか」「どれくらいのサイズの橋を作るか」といった点に加えて、「どれくらいの重さに耐えられるか」を競ったり、「一定の重さに耐えられる橋を、どれだけ軽く作れるか」を競ったりするなど、作る側の学年や人数によって、さまざまなルールを設定する事ができます。ここでは、パスタブリッジの作り方について、参考になるサイトを2つご紹介します。

東京工業大学 Science Techno

<http://www.t-scitech.net/>

今回の紙面作成にあたり、取材に協力して頂いたサークル、東京工業大学 Science Technoのサイトです。

小学生に向けたパスタブリッジの作り方が掲載されています。イベントが行われた際の写真もあり、参加した子どもたちが楽しんで作っているのがわかります。

パスタブリッジコンテストに挑戦！

(東京大学大学院 工学系研究科 機械工学専攻酒井・泉研究室)

<http://www.fml.t.u-tokyo.ac.jp/pasta/>

今回の紙面の監修者である泉聡志先生の研究室では、毎年「パスタブリッジコンテスト」が開催されています。学生達が材料力学の専門知識を駆使してパスタブリッジを作り、強度を競っています。

今年のコンテストでは、平麺^{めん}パスタを使った意外な形のパスタブリッジが優勝しました。

訂 正

『理科教育ニュース』7月18日号（No.728）付録紙面1ページ内、以下の部分を訂正いたします。

- ・右段見出し「地球温暖化との関連は？」下8～9行目
「太平洋の西側の海水温が上昇し、日本は暖冬となるのですが…」



「太平洋の西側の海水温が上昇しますが…」

- ・同9行目及び10行目「ラニャーニャ」→「ラニーニャ」